

平成29年3月現在

協議会名	自然再生の目標	これまでの取組状況
荒川太郎右衛門地区自然再生協議会	昭和初期までの荒川の流路であった旧流路と周辺において、荒川太郎右衛門地区自然再生地固有の豊かな生態系を育む湿地環境の再生を目指す。	乾燥化が進む旧流路において湿地環境の保全・再生及び壮齢化した河畔林を保全・再生。維持管理の検討やモニタリング等を実施。
釧路湿原自然再生協議会	1. 湿原生態系の質的量的な回復(生物環境) 2. 湿原生態系を維持する循環の再生(物理・化学環境) 3. 湿原と持続的に関われる社会づくり(社会・経済環境)	流域からの土砂流入等により乾燥化が進む釧路湿原を再生。達古武森林の間伐及び植栽や達古武湖におけるヒシの抑制、その他住民等への普及啓発等を実施。
麻機遊水地保全活用推進協議会	麻機遊水地に昔から暮らしてきた多様な生きものたちが、遊水地で息を吐き・生育できる環境を再生していくことを目指す。	洪水防止対策として造成された麻機遊水地において元の浅畑沼における植物の回復等自然環境を保全・再生。外来種駆除や植生の保全活動、観察会の開催、福祉農園、水田、湿地の整備等を実施。
多摩川源流自然再生協議会	多摩川源流域の河川、森林、里山、里地その他の自然環境を保全・再生・創出し、その状態を維持管理することを通して、自然と共生する社会の実現を図る。	山梨県小菅村全域において森林や河川景観等を再生。
神於山保全活用推進協議会	身近な自然である神於山の自然再生と今日の里山のあり方を考えることを通じて、自然環境の大切さを見つめ直します。	竹林の侵入が進む神於山においてクスギ・コナラを中心とする落葉樹林帯やカン・シイを中心とする常緑樹林帯を再生。竹林の整備やナルトサワギクの駆除等を実施。
関原湿原地区自然再生協議会	昭和中期頃の湿地植生を再生し、人為活動との適切な関係を再構築	特定植物の繁茂や植物遺体の堆積といった自然遷移の進行により悪化している湿地環境を良好な状態へと再生。
権野川河口域・干潟自然再生協議会	人が適度な働きかけを継続することで自然からの恵みを持続的に享受できる場、「里海」を再生する。	権野川河口域・干潟の自然環境を再生・維持。干潟・アマモ場再生に向けた取組やカブトガニ幼生生育調査を実施。
霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会	多様な動植物が生育・生息し、里と湖の接点を形成する湖岸帯の保全・再生に取り組む。	霞ヶ浦湾奥部の湖岸環境を再生。一部区間について整備が完了し、モニタリングを実施。また、一部区間について整備工事着工。
くぬぎ山地区自然再生協議会	高度経済成長期前のかつての武蔵野の平地林のような、人との関わりによって育まれてきた多様な自然環境を再生する。	川越市、所沢市、狭山市及び三芳町にまたがる武蔵野の平地林「くぬぎ山地区」における歴史的・文化的・環境的価値の継承の取組を実施。対象地域の植生復元や荒廃雑木林の整備等を実施。
八幡湿原自然再生協議会	「命の環つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。	臥竜山麓八幡湿原地域において湿原環境を再生。実施計画に基づく工事が完了し、湿原生態系の再生状況のモニタリング等を実施。
上サロベツ自然再生協議会	高層湿原・・・国立公園指定時(昭和49年)の植生やその広がり状況をイメージし、当時の状況を残す箇所を標準とし、これを目標とする。 ベンケ沼・・・現状を維持すること(これ以上埋塞が進まない状態) 泥炭採取跡地・・・開水面の閉塞を進め湿原植生の再生・創出を図ること 砂丘湖沼群・・・生態系を保持するために水位低下を抑制すること	国立公園であるサロベツ湿原と農地が隣接する北海道豊富町において、農業と共存した湿原を再生。農地と湿原の緩衝帯整備地域におけるモニタリングや水抜き水路の堰き止めによる地下水の流出抑制等を実施。
野川第一・第二調節池地区自然再生協議会	昭和30年代前半、対象地域に存在していた「水のある農の風景」を規範とし、当時の風景が持っていた水を中心とした環境システムの再生を目指す。	土地利用の変化により自然環境が大きく損なわれたかつての多様な河川環境を再生。野川の河川環境の改善や植物、昆虫、水生生物等のモニタリング調査を実施。
蒲生干潟自然再生協議会	生態系の上位である渡り鳥にとって良好な湿地環境の保全と空間の適正利用による環境保全活動・環境教育を行う場および多様な主体が交流し、情報を共有する場の創出。	シギ・チドリ類などの渡り鳥の飛来地であり、また底生動物の宝庫である貴重な干潟環境を保全・再生。東日本大震災後、協議会休止中。
森吉山麓高原自然再生協議会	草地造成事業(昭和40年代)以前のフナ林等を再生し、クマガラの生息に適した環境を拡大する。	かつて草地として開発された森吉山麓高原を広葉樹林に再生し、周辺の自然環境と共に保全。再生対象地への植栽は概ね完了し、造林した植栽地が森林として成林していくこと、及び持続可能な体制を確立することを目的とした取組に向け新たな実施計画を平成27年度末に作成。
竹ヶ島海域公園自然再生協議会	エダミドリイシが健全な状態で生き続けていける環境を取り戻す。	サンゴを中心とした海洋生態系を回復。実施計画に基づきエダミドリイシの特性把握や海域公園周辺の環境改善等の目標に向けた取組を実施。
阿蘇草原再生協議会	さまざまな主体の協働により、阿蘇の多様性の高い草原生態系が保全され、草原景観が維持されるとともに、それらが継続的に管理されるようにする。	阿蘇の草原を維持、保全及び再生。野草環境保全計画(牧野カルテ)の策定や牧野管理省力化に向けた施設整備等を実施。
石西礁湖自然再生協議会	長期的目標:1972年の国立公園指定時の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻す。 短期的目標:環境負荷をなくし、現状より悪化させない。	優れたサンゴ礁を保全することに加え、赤土流出低減の取組を進めるなど陸域からの環境負荷を少なくするとともに、サンゴ群集の修復などを通じてのサンゴ礁生態系を再生。サンゴ群集修復工事やモニタリング調査、普及啓発活動等を実施。
電串自然再生協議会	近年衰退の著しいサンゴ群集を主体とする海中景観および海域生態系の保全・再生。	電串湾のサンゴを再生するため、海底に堆積した泥土の除去や、森林や河川などからの土砂流出、周辺地域からの生活排水など、流域からの様々な環境負荷を抑制。取組後の調査・モニタリングを評価した結果、基本目標であるサンゴの回復を達成したため、引き続きサンゴの保全活用を推進していくための取組を実施。
中海自然再生協議会	豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築する。	戦後の開発や生活雑排水の流入などにより失われた中海全域の自然環境を再生。実施計画に基づき、海藻類の回収及び利用事業や深瀬窪地の環境修復事業等を実施。
伊豆沼・内沼自然再生協議会	昭和55年7月の洪水被害を受ける以前の頃の生物多様性豊かな自然環境を取り戻す。	周辺の農村環境や地域の人々の生活と共存しながら、豊かな水生植物群落を復元し、多様な水鳥、在来魚が生息していた湿地環境、湿原景観を再生。生物多様性の保全と再生、健全な水環境の回復、賢明な利用と環境学習の推進等を実施。
久保川イーハート自然再生協議会	里地里山における侵略的外来種の防除、棚田や雑木林などの手入れを通して生物多様性を保全し、その重要性を広く発信して地域内外の交流を活性化させる。	ため池等での外来種対策、適切な管理による雑木林や河畔域の生物多様性の保全・再生を図り、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に継承。実施計画に基づく取組により、侵略的水性外来生物のコントロール、在来の水生生物相や植物の保全・再生について一定の成功を収めている。新たに耕作放棄地を対象とした実施計画を平成28年度に作成。
上山高原自然再生協議会	上山高原及び周辺地域において、ススキ草原約45haを維持・整備し、フナを中心とした落葉広葉樹林の森約31haを再生する。	スギ等の人工林の広葉樹への転換と二次的自然であるススキ草原を再生。ススキ草原復元に向けたササの刈り払いや灌木の伐採、草原の維持管理手法の試験等を実施。
三方五湖自然再生協議会	かつての生きもののにぎわいと、人のにぎわいを取り戻すため、先人の知恵と努力に感謝し、湖と人、人との関わりを見直しながら、将来にわたって三方五湖の恩恵を受けることができる誇りある地域社会を実現する。	三方五湖の湖沼環境を保全・再生。事業者と研究者が連携した体制づくりや研究者による調査、市民参加型モニタリング調査等の実施。
多々良沼・城沼自然再生協議会	「人と沼の絆の創造と再生」をスローガンに、過去の環境の再生をイメージし、「21世紀にふさわしい沼本来の姿」を目指す。	多々良沼・城沼の湖沼環境を保全・再生し、新たな人との関わりを創出。多々良沼魚介類及び樹木モニタリング調査を実施。

<p>高安自然再生協議会</p>	<p>絶滅危惧種（ⅠA類）のニッポンバラタナゴを含む地域固有の生物多様性を維持することで、人と自然が共生して暮らせる持続可能な地域づくりを目指す。</p>	<p>高安地域の里地里山の水循環系を保全し、外来動植物対策や管理放棄が進む雑木林や水辺の適切な管理を通じて、絶滅危惧種であるニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全・再生。全体構想の検討や市民の憩い池を利用したニッポンバラタナゴの保護等を実施。</p>
------------------	---	--